



マインドだより

2025年
2月号

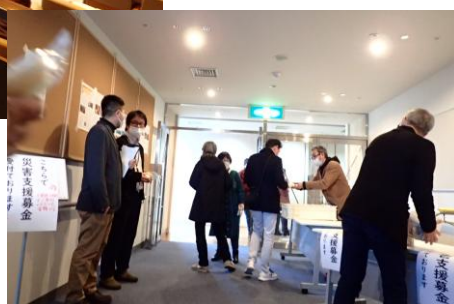
「変わること、変わらないこと、その先に・・・」

1月の法人主催の映画会には150名を超えるご来場をいただき、ありがとうございました。今回はイタリア映画「人生、ここにあり」、原語タイトルは「Si puo' fare: Shippo-fare!」、日本語訳で「やれば、出来るさ」です。ストーリーは精神科病院が舞台となり、入院者が仲間同士や街なかでの役割を見出し、いきいきと活躍する。一方、現実と直面し悲しい結果を迎えたり、しかし、まず何事も行動・体験し、失敗もし、そこから前向きなエネルギーに変えていく、つまり「やれば出来るさ」を明るくユーモアたっぷりに描いていました。時代背景はイタリアの精神医療改革の中心であった医師フランコ・バザーリアが「治療は病院ではなく地域で治療し、そして暮らす」という通称「バザーリア法」施行の1978年前後と思われ、その情景そのものを映し出しています。今も私を励ましつづけるバザーリアの言葉があります。「理性の悲観主義ではなく実践の楽観主義」、つまり、先ほど述べたことと同様、「理屈ばかり考えるより、行動し道を拓いていく」ということです。



イタリアの改革から約50年、実はマインドはちおうじも一昨年に法人化20年、もとの「わかくさ福祉会」が生まれ42年目を迎えます。日本といえば大袈裟ですが、どう変わったのでしょうか。あおば福祉会（杉並区）の田中直樹さんが、ある冊子の連載特集「社会の進歩は人々を幸福にするか」のなかで、「障害者福祉の進歩とは・・・その進歩が幸福をもたらしたのだろうか」、そして結びでは「幸福は誰かがもたらす進歩ではなく、私たち自身が幸福になる社会をつくるのが進歩と思う」と述べていました。この間の障害者福祉制度・施策の充実が誰しも疑うことはないでしょう。しかし「この充実」は障害当事者にとってはどうなのでしょう、「幸福に近づく価値」と言い換えられるのでしょうか。最近、その田中さんを招いた市内NPOの勉強会があり、ひとりの参加者が「自分は障害者就労が出来たが、結局は（健常者とは）今も区別され、差別されている」という発言がありました。よって、「施策の充実」とか、「障害者でも就職出来た」ではなく、目指す先は障害のあるなしに関わらず、仕事も含め、区別なく、暮らせ、幸せと感じられる世の中かと思います。

映画の話に戻ります、「人生ここにあり」の時代は労働組合や協同組合の活動が活発で、既存体質からの脱却、政治を市民の手に取り戻すため行動するというエネルギーが映画に満ち溢れていました。



私も30～40年前に、作業所やグループホームでの利用者・職員という関係でなく、皆が組合員として出資し、何か事業をやれないかと考え当時、例えば、ある店を立上げ、元外資系銀行員のAさんは会計担当、Bさんはキヨスク（JR構内売店）の経験が長く、仕入れからお店全般を任せ、そしてCさんは、笑顔が素敵だったので、接客担当とか、Mさんは・・・と想像を巡らせました。今もその思いはどこかにあり、小さなアクションをつづけています。

（理事長 山本 誠）

「ピアわかくさ 施設長就任挨拶」

今年度途中から就労継続支援B型事業所ピアわかくさの施設長を務めさせていただいている小柳秀と申します。私が入職した2002年は紙漉きのハガキやしおりを作り、畳に座りながら、アイロンがけをしたり、話し合いをし、将棋やオセロやトランプをしたり、横になって休んだり、食事をしたり、時間がゆっくり流れている時代だったように思います。現在は、室内での6社以上からの受注作業、他にも清掃、ポスティング、外部の企業での施設外就労を行っています。作業以外の経験も大事にしており、パソコン教室、ストレッチ体操、スポーツジム参加、料理、レクリエーションなど、様々なプログラムを行っています。

自分の生活もあるけれど通うことで自分にも何かができるかもしれない、今は自信がないけれど将来は就労したい、ここで長く働きたい、など利用者の方々は様々な思いで通われています。ご自分の思いを少しずつ話しながら安心感を得て、経験を重ねていく中で自信を紡いでいく。そんな環境が、もちろん完全ではないですが、できているのだと思います。今後も利用者の方々の自信や楽しみにつながるプログラムや環境を考えていきたいです。

作業やご自身の生活にまだ自信を持てなくても大丈夫です。今までのご苦労や楽しみ、お一人お一人のやってみたいこととお聞きしながら「今とこれからのこと」を一緒に考え、ご本人が希望することへ繋がっていくお手伝いを関係者の皆様と力を合わせて進めていきたいと思っています。

(ピアわかくさ 施設長 小柳 秀)

「八王子市障害グループホーム連絡会について」

私は、2021年度から八王子市障害グループホーム連絡会の幹事をしています。どんな事をしているのか、今回ご紹介させていただきます。

八王子市障害グループホーム連絡会は、八王子市障害者地域自立支援協議会の地域継続支援部会に属しています。幹事は現在10人、精神障害の方を主に受け入れているグループホームの職員は、私を含め2人。知的障害の方を主に受け入れているグループホームの職員が8名と多い状況です。幹事の経験年数などは様々ですが、入居者さんを思う気持ちは皆同じです。

幹事会は2カ月に1度開催され、八王子市障害者福祉課の方も参加して下さっています。グループホームの繋がりを作り、より良い支援が出来るような取り組みが出来ないか、という事を話し合い、研修や見学会・交流会の企画・運営を行っています。2025年1月現在、八王子市内には87法人が運営するグループホームがあり、1407人分のお部屋があります。幹事をしても、全てのグループホームを知ることは難しいです。しかし、普段の業務では知ることの出来ない話を聞くことができ、貴重な経験をさせていただいております。また、迷う事や分からない事など、同じグループホームの職員に話せることが、大きな心の支えになっています。

今後、幹事会では職員の交流会や勉強会だけではなく、入居者さん同士の交流会をしようと考え、バーベキュー大会を企画する予定です。様々なグループホームとの交流を進め、お互い良い支援が出来るようにしていきたいと思っています。

(メゾンコム 施設長 杉江 由佳)



【法人ホームページ】

<http://mindhachioji.org/>
HPのQRコード→

※各事業所の詳しい作業内容、動画などもご 覧頂けます。



■今後のスケジュール

2025年

3月10日(月) 通所事業所説明会 13:30～15:00

3月21日(金) 青空バザー 10:00～13:30

(リサイクルわかくさ駐車場)

社会福祉法人マインドはちおうじ
東京都八王子市横山町20-19 エイトビルヨコヤマ I 2階
☎042・631・9404

(※法人本部ビル名が橋本ビルから上記に変更になりました。)

【編集】 広報委員会

ご意見ご感想は、下記へお願いします。

kouhou@mindhachioji.org